■80□

日野高の寮生らでつくる「みらいず」

交流通し町ににぎわいを

高校生の力で過疎化が進む町に、にぎわいを生み出そうと日野高（日野町根雨）の学生寮「双葉寮」で暮らす寮生らで昨年12月に結成した「みらいず」（青木環央代表）。地元の人たちとの交流を通して、活気と笑顔があふれる地域づくりに取り組んでいる。

２０２２年秋に地元の地域づくり団体「黒坂フェスタの会」が実施した鳥取市鹿野町への視察旅行に参加したのをきっかけに、自分たちでも地域づくりを実践したいと結成。本年度は、令和新時代創造県民運動推進補助金を活用して、イベントへの出店、地元の農家で体験したブルーベリー狩りの様子を交流サイト（ＳＮＳ）で発信して魅力を伝えるなど、さまざまな活動を展開している。

メンバーの特技を生かした教室も好評だ。高齢者向けのスマホ教室では、ＬＩＮＥ（ライン）アプリを使って写真やメッセージを送信する方法を一対一で丁寧に指導。「帰宅してすぐ孫に写真を送ったら、返事が来た。スマホを使う自信を持つことができた」と喜びの声も届いた。

黒坂フェスタで「たません」の屋台を出店したみらいずのメンバー＝9月24日、日野町黒坂の旧黒坂小

関東や東海など県外出身者が多い「みらいず」ならではのアイデアもある。名古屋市出身の青木代表は、鳥取県ではあまり知られていない名古屋の定番おやつ「たません」をみんなに食べてもらいたいと、メンバーと協力して日野町で開かれたイベントに屋台を出店。参加者は県外の〝異文化〟に触れ、当日は用意した40食が1時間ほどで完売する人気ぶりだった。

青木代表は「みんなが笑顔になれる地域にしていくことが私たちの描く〝みらいず（未来図）〟。魅力を発信することで移住者や遊びに来てくれる人を増やしたい」と語った。

（C）新日本海新聞社　無断複製・転載を禁じます